

鎌ヶ谷総合病院 運営協議会

令和5年度 第1回会議 会議録

## 鎌ヶ谷総合病院 運営協議会（令和5年度 第1回会議 会議録）

日 時：令和5年12月19日 14時～15時

場 所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 3階 集団指導室

出席委員：堀隆樹（鎌ヶ谷総合病院院長）皆川学（船橋歯科医師会理事）、土居委員（船橋薬剤師会専務理事）代理 杉山宏之（船橋薬剤師会会長）、長谷川美穂（千葉県看護協会常任理事）、富田信恵（鎌ヶ谷市議会議員）、北村眞一（鎌ヶ谷市副市長）、小笠原直樹（鎌ヶ谷市健康福祉部長）、山下統晤（市が推薦する市民の方）、渡邊和彦（鎌ヶ谷総合病院事務長）【敬称略】

欠席委員：野村直人（鎌ヶ谷市医師会理事）、酒井寿枝（市が推薦する市民の方）

【敬称略】 ※（ ）内は就任当時もしくは現行のもの

事務局員：<鎌ヶ谷市> 本間健康増進課長、館岡健康増進課主幹、舟波健康増進課主幹、仲村健康増進課予防係長

<鎌ヶ谷総合病院> 星副院長、谷河事務次長、保坂総務課係長

事務局谷河：

本日はお忙しいところ、鎌ヶ谷総合病院運営協議会に出席いただきまして、ありがとうございます。私は事務局の鎌ヶ谷総合病院事務次長の谷河と申します。よろしくお願ひいたします。今回、事務局としまして、鎌ヶ谷市役所様の方から、健康増進課本間課長、館岡主幹、舟波主幹、仲村係長、鎌ヶ谷総合病院から、副院長の星、総務係長の保坂、わたくし事務次長の谷河が参加しておりますことをご了承ください。

協議会の開催に先立ちまして、協議会の議長の選出を行います。運営協議会設置要綱の第4条2項に、『協議会の会長は徳洲会を代表するものから選出する』とあり、また、設置要綱の第5条1項に、『協議会の会議は会長が招集し議長となる』とございます。当該設置要綱に基づきまして、鎌ヶ谷総合病院の堀院長が協議会の会長として議長就任となります。

では、本日の出席者をご紹介します。船橋歯科医師会理事皆川委員ですが、少し遅れられておられますので、後程ご紹介させていただきます。続きまして、船橋薬剤師会専務理事・土居委員。なお、本日は、船橋薬剤師会会長・杉山宏之様が代理で出席でございます。続きまして、千葉県看護協会常任理事・長谷川委員、鎌ヶ谷市議会議員・富田委員、鎌ヶ谷市副市長・北村委員、鎌ヶ谷市健康福祉部長・小笠原委員、市が推薦する市民の方として山下委員。そして、鎌ヶ谷総合病院院長・堀委員。鎌ヶ谷総合病院事務長・渡辺委員。

なお、本日の欠席は鎌ヶ谷市医師会理事・野村委員、及び市が推薦する市民の方として酒井委員の2名となっております。

それでは堀議長、鎌ヶ谷総合病院運営協議会の開会宣言をお願い致します。

堀 議長：

よろしくお願ひします。それでは設置要綱の第5条に則り議長を務めさせていただきます。

『それでは、ただいまから鎌ヶ谷総合病院運営協議会を開会いたします』以降の進行は事務局にお任せします。よろしくお願ひします。

事務局谷河：

それでは会議資料の確認をいたします。本日の会議資料は4点でございます。まず、鎌ヶ谷総合病院運営協議会・令和5年度第1回会議要旨、2つ目が鎌ヶ谷総合病院運営協議会・委員名簿、3つ目が鎌ヶ谷総合病院運営協議会・設置要綱、そして4つ目が、少し分厚くなっておりますが、鎌ヶ谷総合病院・運営状況資料でございます。不足しているものがありましたら、お知らせ下さい。大丈夫でございますか。

では、次に、本協議会の進行についてご説明をいたします。鎌ヶ谷総合病院運営協議会は公開の形となります。そのため、会議議事録を作成させていただきますので、ご了承願います。本日使用する録音システムについてご説明をいたします。会議の内容を明瞭に録音するため、発言の際は、お1人ずつ目の前のマイクに向かってお願いします。発言される場合は、マイクの手元でございますボタンを押すと、赤いランプが点灯しますので、赤いランプの点灯を確認していただき、それから発言をお願いします。発言を終了される場合は、もう一度ボタンを押して、赤いランプの消灯を確認してください。大丈夫でございますか。

それでは、会議録の署名人の選任に移ります。堀議長、進行をお願いします。

堀 議長：

それでは、本協議会の会議録署名人は、山下委員及び小笠原委員にお願いしたいと思います。ご異議ありませんでしょうか？（会場から異議なしの声）

ありがとうございます。山下委員、小笠原委員よろしくお願いします。

それでは本日の議題の審議に移らせていただきます。鎌ヶ谷総合病院は地域の皆様に支えられまして16年目を迎えました。その間いろいろなことがありました。何とかここまでやってこられたものだと思います。重ね重ね地域の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。それでは渡辺委員、鎌ヶ谷総合病院の運営状況について説明をお願いします。

渡辺委員：

鎌ヶ谷総合病院、事務長の渡辺です、よろしくお願いします。それでは私から説明いたします。お手元にあります、鎌ヶ谷総合病院・運営状況資料をご覧ください。まず1枚めくっていただきまして1ページ目から説明いたします。昨年度からの月別の平均外来患者数を記載しております。1日平均500人から600人となっております。2ページ目をご覧ください。新型コロナが始まりました2020年度は、月平均502人とやや減少しておりましたが、2022年度の平均外来患者数は、平均で562人。2023年度は4月から11月の8ヶ月平均で567人となっており、コロナ前2019年度と同等まで外来患者数は回復しております。次3ページ目をご覧ください。小児科の外来患者数になります。本年11月から安本医師をお迎えいたしまして現状常勤医が3名体制となっております。外来診療は月曜日から金曜日までほぼ3名体制で行っております。前年の小児科の外来数は300人程度でしたが、今年は季節性も影響してか、直近の10月及び11月は800人程度と増加している状況となっております。次4ページ目をご覧ください。産婦人科の外来患者数になります。現在、非常勤ではありますが、月曜日から金曜日まで外来診療を行っております。月平均100人前後の外来患者数となっております。次5ページ目をご覧ください。こちらは全診療科の地域別外来患者数の比率になります。鎌ヶ谷市民の方が54%と病院の総外来患者数の半数以上を

占めているという形になっております。次6頁目をご覧ください。救急搬送についてですが、当院では年間約5,000件程度の救急車を受け入れており、月平均400件前後の搬送件数になります。当院で受入れる救急患者さんの地域別の割合は、次の7頁目をご覧ください。ここにありますように鎌ヶ谷市民の方が概ね8割を占めている状況となっております。次8頁目をご覧ください。2022年4月以降の平均入院患者数になります。2022年度の平均入院患者数は277人、2023年度は4月から11月の8ヶ月平均で300人前後となっております。11月は平均303人で入院ベッドの利用率は91.5%となっております。最後に、9頁目をご覧ください。地域別の入院患者数の割合は、鎌ヶ谷市民の方が概ね6割という状況となっております。

堀 議長：

渡邊委員、ありがとうございました。

それではただいまの説明につき、ご質問等ございませんでしょうか？

北村委員：

はい（挙手）

堀 議長：

北村委員、お願いします。

北村委員：

例えば8頁のところ、ベッド数に対して91.5%という話がありました。ベッド数は当初248床で、その後83床を増床して、今は331床だと思います。今度の増床計画、まだ決まっていらないと思うのですが、その辺についてお話をさせていただければ助かります。

渡邊委員：

はい、ありがとうございます。それでは、増床計画についてご説明します。現在、89床の増床申請を鎌ヶ谷市様及び鎌ヶ谷市医師会様の推薦を経まして、申請中でございます。概要としましては、89床の回復期の病床でございます。進捗状況は、令和5年10月23日に千葉県のアリリングを受けまして、11月2日に行われました地域医療構想会議にて説明を行い、令和6年3月の県からの病床許可を待っているという状況でございます。

堀 議長：

よろしいでしょうか。

北村委員：

はい（挙手）

堀 議長：

北村委員、お願いします。

北村委員：

参考までに、わかれば、良いのですが。今回の申請は回復期病床ということですが、今ある病院の331床の内訳というのはわかりますか？

渡邊委員

今ある病院の331病床の内、回復期病床は40床。その他、ICU、HCUの病床が合計で20床。その他が急性期の一般病床という形になります。

堀 議長：

よろしいでしょうか。

北村委員：

はい（挙手）

堀 議長：

北村委員、お願いします。

北村委員：

はい、ありがとうございます。続けて何点かよろしいですか。1頁のところ  
で、1日平均外来患者数が概ね600人ぐらいでずっと続いているのですが、何  
回か病院に行った時に、大変混み合っていました。また市民の方からも、なか  
なか予約を取るのも難しい状況にあると聞くのですが、病院として、マックス  
でどのぐらい大丈夫なのですか。外来患者は今600人ぐらいですが、これはも  
うマックスに近いのでしょうか？ 皆様すごく忙しくされておられますよね。

堀 議長：

実際のところは、土曜日と日曜日があり、土曜日が540人～550人で月曜  
日・火曜日・水曜日の多い日が900人を超えます。その日は、確かに採血室あ  
たりとか受付等、それから薬のところ及び会計のところが混雑しています。平  
均的には600人程度でずっといくと、多分比較的安定するのですが、やはり多  
い日と少ない日があるので、そういう状況になっています。900人だと、さす  
がにちょっとしんどいかなというところがあるので、できたら本当は平均化し  
てということで、予約体制がしっかりできると良いかなと思っています。

事務局谷河：

ただいま、委員が到着されましたので、ご紹介いたします。船橋歯科医師会  
理事皆川委員でございます。

皆川委員：

船橋歯科医師会の皆川でございます。よろしくお願い致します。

北村委員：

前日も聞いたのですが、お隣のバースクリニックさんとの連携は、今どのよ  
うになっているのでしょうか？

渡邊委員：

私からお答えいたします。以前は鎌ヶ谷バースクリニックさんとの連携で、  
クリニックさんでお生まれになったお子様の1か月健診等を当院で受診する  
という連携を取っておりました。しかし当院の小児科医が、一時1人体制にな  
ったところで、連携がちょっとストップしているという状況が現在まで続  
いているのが現状でございます。

北村委員：

今後の見込みは、何かあるのでしょうか？

渡邊委員：

今のところ、現状、進行しているものはございません。

北村委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

堀 議長：

先日（鎌ヶ谷バースクリニックさんへ）お伺いして、いろいろお話を聞いて  
きました。当院の小児科が医師3人体制になって、今感染症が非常に多いので  
1日50人から60人平均して診ています。これが、今、多分医師2人だったら  
診きれなかったと思うのですけれども、何とか月曜日から金曜日まで対応でき

ている状況です。3人目の先生も、この前入ったばかりなので、今後もう少し充実してくると、また、以前と同じ様に、そういったところもまた検討していけたらと思っています。

北村委員：

よろしくをお願いします。

堀 議長：

他にはありませんでしょうか？

山下委員：

はい（挙手）

堀 議長：

山下委員、お願いします。

山下委員：

資料の件ですが、従来ですと、鎌ヶ谷総合病院に寄せられた苦情というのがありますよね。その苦情のデータをこの会を出していただいております。苦情のデータというのは、市民の皆さんが、雇われた皆さんが、気付いたことを書いていると思います。だからそういうものはどのくらいあって、前年対比でどのくらい増えたかというようなことは、随時追いかけていった方が、CS（患者満足）上も、良いのではないかと思うので、ぜひそのデータ収集を今後も続けていただきたいなと思います。

事務局谷河：

事務局谷河が回答致します。山下委員のご指摘通り、当院では『患者様の声』（患者様からのご意見及び苦情等を提出していただくための所定の用紙）という用紙を集め、このように全部綴っております。（『患者様の声』を綴ったファイルを提示）今回、精査中でちょっと載せられなかったのですが、集計はできております。簡潔ですが、この場で申し上げます。4月から11月までの『患者様の声』の総件数が135件。その内、一番多かったのがお礼で27件でした。次に待ち時間の表示等のシステムにつきまして25件です。職員の態度、少し言葉遣いが良くない等職員の態度につきまして24件です。そして待ち時間につきまして17件、及びその他となっております。

山下委員：

待ち時間は、先ほども、出ましたよね。

事務局谷河：

先ほど申し上げたのは、待ち時間の表示等に係るシステムについて25件で待ち時間（そのもの）については17件となっております。概ねこのような形で、お礼が一番多いという事になっておりますので、ご報告申し上げます。

山下委員：

その件は、大体わかりました。今後は、それをデータでこの運営協議会に出していただきたいというのが、私のお願いです。それと今の待ち時間についてついでに申し上げます。信濃町の慶應大学病院、順天堂新浦安（順天堂大学医学部付属浦安病院）というのがありまして、私も病気がちで、かかっているのですが、そこの待ち時間システムというのは、こちらがLINE申請すると、どこに行っても10分前になると、もうすぐですよとのLINE（連絡）が入ります。それまでは、コーヒー飲んだり、食事したり、テレビ観たり、あちこちでウロウロできるのです。これはすごくいいから、可能であれば、ぜひそうい

うシステムを入れてほしい。

事務局谷河

おっしゃる通りです。システムというところで、もう少し待ち時間を有効に(活用)できるようにとのお声は多くございます。

山下委員：

はい、よろしく申し上げます。

堀 議長：

追加です。現在AI問診とか、DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル技術を活用した業務改善)を含めて検討しています。おそらく今話された様な病院に行かれる患者さんは山下さんと同じように、LINEが使える人が多いと思います。当院では、結構検討しているのですが、上手く使える患者さんが多くないのではないかと思います。今、小児科の患者さんに関しては、皆さん(親御さん)若いので、いけるということで、AI問診及びDX予約というものを取り組んでいるところです。今後、もう少し普及して簡単に使えるようになれば、全患者さんにも対応できるかなと思っています。確かにAI問診で先に情報が入ると検査の準備とかも良くなると思います。世の中そうなのですが、特に厚生労働省が言っているように、何とかそちらの方向で準備をさせてもらっています。よろしく申し上げます。

他にはありませんでしょうか？

長谷川委員：

はい(挙手)

堀 議長：

長谷川委員、申し上げます。

長谷川委員：

看護協会の長谷川でございます。増床計画で、3月に89床のOKを待っているということで、それは今の建物のまま89床OKとなればすぐオープンできるのか？ または、いつごろオープンになる予定なのかというのが1点。

看護協会が毎年行っている動向調査等では、看護職の離職率は、コロナ禍のなか、残念ながら増えております。あと、今年の調査が一番高くなっていますが、数年前の推計では、2025年には千葉県で8,800人の看護職が不足するという推計が出されていて、コロナ禍で離職率が上がったので、もっと足りないのではないかと危惧しているところです。鎌ヶ谷総合病院さんの看護職の離職率がどのくらいで、増床した時に看護職の確保は大丈夫なんでしょうかというあたりをお聞きできればと思います。

渡邊委員：

はい。私からお答えいたします。病床に関しましては、既存の建物内の改修工事で89床をカバーできる計画をしております。ただ、計画は、令和7年12月から設計段階に入りまして、その後、2年間をかけて建物の内部を完成させるという計画になっております。3月の時点で待っていると言いましたが、まだ千葉県の審議会を経てからの病床配分になりますので、その時点で3月という形になっております。

事務局谷河：

看護職の離職率につきましては、事務局から説明致します。看護職の離職率は、2021年度は11%、2022年度は13%でございます。ただ、離職防止の対策

としましては、保育所及び看護師寮の充実です。看護師寮は、これは相当な金額を病院が負担してやっております。また、看護師の修学資金等色々な制度もございます。鎌ヶ谷総合病院は、育休の明けた看護師の方が戻ってくる率が本当に多いというのは、堀院長も話している事でございます、結構仕事のしやすい環境だと思います。

渡邊委員：

あともう1点、89床増床しても、看護職の人数が足りているかというご質問ですが、規定上の法律上の看護職数は、足りているという状況で計画しております。

堀 議長：

追加でいいですか。私は2020年4月に転勤してきました。最初にびっくりしたことは、（鎌ヶ谷総合病院では）産休及び育休の方が常時30人程いました。全体の10%です。皆さん職場（病院）に復帰され、また仕事をされて、それでまた2人目等、本当に非常に働きやすいのだなと感じました。離職率は、どこもある程度あるのですが、お子さんと一緒に戻ってきて、また一緒に（病院の保育所へ）登園というのか、出勤と一緒に連れてきて、みんなが元気ですというような感じでされています。働く環境としては、本当に素晴らしいものだと思います、本当に感心しました。

長谷川委員：

保育所は、夜間保育もあるという事ですか、（保育士さんに）夜勤をしてもらうのですか？

事務局谷河：

事務局からお答え申し上げます。年中無休で24時間体制です。対象年齢が生後4ヶ月から小学校6年生まで、現在登録のお子様が174名います。職員の利用者は、平均で毎日30名以上です。

堀 議長：

他にありませんでしょうか？

富田委員：

はい（挙手）

堀 議長：

富田委員、お願いします。

富田委員：

今の質問に関連しますが、常時30人ほどの0歳から小学校6年生までのお子さんに対し、保育士さんはどういう体制で勤務されているのか伺います。何人体制とか？

渡邊委員：

私からお答えいたします。事前に勤務表を提出していただいて、預けられる看護師さんのお子さんの数を把握しております。（看護師さんの）夜勤数に合わせて保育士を増減させています。一応外部委託ですので、そのような調整をして対応しております。

堀 議長

よろしいでしょうか。他にございませんか？

ないようでしたら、鎌ヶ谷総合病院の運営状況につきましては以上で終了させていただきます。



続きまして、鎌ヶ谷総合病院に対する要望等に移らせていただきます。委員の皆さんからご要望についてご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

富田委員

はじめに開設以来、中核病院として市民のために幅広い診療を提供していただきまして大変にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症では、鎌ヶ谷市に大きく貢献していただき、市民の代表として、心より御礼申し上げます。コロナによるパンデミック下で、医療従事者、スタッフ等のご苦勞は尋常ではなかったと思いますが、コロナの影響はマイナスだけではありませんでした。個人のIT化、リモート環境が進んだことで、ワークライフバランスを考慮した生活を重視する人も増えたのではないかと思います。そんな中、鎌ヶ谷総合病院のホームページ上で公開されていますように、オンラインによる医療講座をスタートさせるなど、市民の健康と生活を守る病院としてもご尽力いただき感謝しております。さてコロナ禍も落ち着き、通常の生活が戻って参りますとともに、市民の活動も再開されております。

そんな中皆様から寄せられた要望を3点お伝えします。まずは1点目、多くの母親世代からの要望で、小児科診療の充実です。鎌ヶ谷市を取り巻く環境は少子高齢化の影響で、小児科や産婦人科医院が減少するなど、厳しい状況にあります。御病院においても、24時間対応可能な小児救急をはじめとする2.5次救急医療体制の確保について、医師の確保等厳しい状況が続いているかと思っておりますが、引き続き要望させていただきます。

続いて2点目です。あらゆる世代の女性のための専門外来です。新しい婦人科クリニックも開業していますが、産科婦人科、不妊治療だけでなく、思春期更年期、また女性特有の疾患等、女性医師に相談し、総合的診療が受けられる科へのニーズも高まっています。全国的にはまだまだ整備が追いついていないようですが、ぜひご検討をお願いします。

最後に3点目、子宮頸癌ワクチンに伴うZoom等の医療講座です。市では、女性特有のがん検診の受診率向上や、子宮頸癌ワクチンの接種勧奨などに取り組んでいただいております。しかしながら、15歳から39歳のいわゆるAYA世代において、がん患者の約8割が女性です。このうち、子宮頸癌ワクチンについては、副反応の報道による不信感から、いまだにワクチン接種に悩む保護者が多いのが現状です。そこで、子宮頸癌についての正しい知識と予防方法について、Zoom公開講座などに加えていただけたらと思います。

以上様々なご事情はあるかと思っておりますが、市民からの期待にぜひ、お答えしていただきたく、基本協定の遵守等についての進行管理という目的からも、市議会を代表し、要望させていただきます。

渡邊委員：

はい、ありがとうございます。ご要望につきまして順次対応をしていきたいと考えております。2.5次救急体制におきましては、人員を確保して体制を整えていきたいと思っております。また女性外来に関しましても、女性医師が全国的に増えてきていると思っておりますが、まだまだ整備がされていない状況が続いておりますので、こちらもしっかり努力して参りたいと思っております。最後の3点目になりますが、鎌ヶ谷市の子宮頸癌ワクチン及び検診を現在当院の方で受託して対応しております。こちらの方も引き続き頑張っていきたいと思っ

ております。また、公開講座におきましては、コロナ禍ではありましたが Zoom 等で公開講座を今も行っておりますので、そちらの方もぜひ検討させていただいて、何とか対応できればと思っております。ご意見ありがとうございます。

山下委員：

はい（挙手）

堀 議長：

山下委員、お願いします。

山下委員：

今の、市議会の代表意見ということですが、そういうのは市議会議員さんの中で、集まって何か議論するのですか。例えば女性議員だけ集まってとか、こういうメンバーが集まって、そういう意見を出してとか。

北村委員：

これについては私の方からお話しましょう。よく富田議員からは、やはり子育てとか、こういった子宮頸癌ワクチンとか、いろいろなところで一般質問という形でいただきます。議会と執行部の間でやりとりをしながら、こういったことについても、お互いに共通認識を持っていく、今回のこの運営協議会の委員というの、議会の中で、誰それを、運営協議会に派遣するというのが、今回、富田議員に決まったという形で議会の意思としてここに参加されているような状況です。当然、情報共有、意見交換は日常行っております。

山下委員：

全般的にいつも心配なのは、女性議員は少ないですね。だから全面的に応援したいのですが、市議会としても女性の意見を積極的に取り入れて、こういう運営協議会とかで要望していけば、すごく良いなと思います。

北村委員：

直接関係ないのですが、女性活躍という意味では鎌ヶ谷市役所は7年連続、女性の管理職は千葉県で一番多いです、PRまで。

堀 議長

素晴らしいことだと思います。ありがとうございます。確かに日本も北欧のように、議員が半分以上女性であるというような、首相とか、市長とか、もう結構半分以上が女性の方が多いのですよね。日本もこういう社会にそのうちなると思います。やっぱりみんなが努力して認め合うということが大事だと思います。特に病院は、実際看護師さんは女性が多いです。最近は本当に仕事と（家庭と）両立してできるようになりました。そこは性別関係なく家庭のことをやるとか、またそういう社会が成り立っていくことを期待しています。

それと、今の質問の中で救急体制です。実際のところ2024年から働き方改革、特に医師の超過勤務のことが問題になっています。実際のところ小児科は現在医師3人体制になりましたが、働き方改革で超過勤務を80時間以内に短縮しようと思えば、医師7人体制が必要です。週1回の夜勤を含めて、多くの事を1人で処理できる（経験豊富な）医師7人の体制が必要です。結局そうしないと昨今研修医において自殺者とか出ていますが、そういう問題がやっぱりあるのかなと思います。実際私も千葉西総合病院（松戸市）にいまして、あそこは24時間体制で救急患者を全部受けていますが、心臓血管外科医が7人いました。7人は多いですが、実際に1つの手術に対して、（医師）3人でやる

事もあります。3人で7日間やるとすれば、合計で21人必要になると思います。私が鎌ヶ谷総合病院に移った後も増員を続けていろいろ対策をやっているのですが、あそこ（千葉西総合病院）は、今では何とか（心臓血管外科医師が）13人となっております。ということは、2024年以降の働き方改革においては、まだ倍の時間の勤務をこなしているという状況です。若い医師が多いので、何とか乗り切っていける状況にはありますが、なかなかその働き方改革と救急体制の維持はかなり矛盾するところもあるので、私たちも（医師として）折り合いつけながら何とか努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

北村委員：

はい（挙手）

堀 議長：

北村委員、お願いします。

北村委員：

私の方から幾つかの要望とお尋ねをさせてもらいたいと思います。まずその前に鎌ヶ谷総合病院の皆様には、平成19年9月1日開院以来、16年間あまりの地域医療の中核としていろいろご尽力をいただき心から感謝申し上げます。今回の病院運営協議会ですが、4年ぶりになるのでしょうか。4年前もいらっしやっと思ったと思うのですが、いろいろお話を聞いています。実際にこの間コロナ禍ということで、鎌ヶ谷総合病院さんには患者の受け入れ、或いはワクチン接種等たくさんの分野で、これは医師会も同じなのですがご協力をいただきました。これも心から感謝申し上げます。ちなみに鎌ヶ谷市の今の秋のワクチン接種率は65歳以上で58%ぐらいでしょうか。やはり多くの高齢者の方、或いは基礎疾患をお持ちの方は、まだ不安をお持ちの方もおられる。ニュースによると、外国では何か新しい変異株が出て、それが猛威を振るいつつあるということで、まだまだ高齢者にとって不安は払拭できない様な状況が続くのかなと思います。5類になったとしても、そういう状況が続くというのが、実際6割位の方がワクチン接種をしているということから見ても、推測されるということで、引き続き、来年以降も、いろいろな面でご協力を賜ればと思います。

また災害対応や救急受け入れにおいて、鎌ヶ谷市民の方が半数以上、鎌ヶ谷総合病院に受け入れてもらっているという状況、そして船橋と共同で実施している二次救急医療機関運營業務、これも参加していただくなど、市との連携についても、しっかり定着してきていると思います。こういった状況をさらに強化していけたらと私どもは思っています。よろしくお願いします。

次に、平成17年に締結した協定書の履行ですが、これは先ほど富田委員からもいろいろご要望がありましたので、重なっているところは割愛させていただきます。私からは1点だけお伺いしたいのですが、協定の中では、循環器科・心臓血管外科 脳神経外科については、順次その機能を拡大するというふうに謳われているのですが、現在はどのような状況になっているのでしょうか。

渡邊委員：

私からお答えいたします。循環器科に関しましては、心臓カテーテルを行うことができる医師が本年11月から千葉西総合病院より入職いたしました。現在、心臓カテーテル検査を再開しております。緊急対応にもできる限り対応しています。心臓血管外科も、循環器科と同様に、順次再開をしている状況にな

ります。脳神経外科に関しましては、現在、脳血管内治療は火曜日から金曜日まで、夜間も対応できる状況にありますので、ドクターが整い次第、また拡大していくという計画を立てております。現在、順次体制を整えているという状況になります。

堀 議長：

本当にしっかりした体制がすぐにできれば良いのですが、やっぱり医師の確保は非常に難しいところがあります。ただ、順次機会を見て、いろんな先生に対して勧誘をおこなう、また大学医局も含めて（医師勧誘の）準備をしております。最近の状況としては、心臓血管外科、脳血管外科について、なり手がいない。もうやっぱり（両科は）厳しい状況ということで非常になり手が少ないです。その中でも千葉西総合病院（松戸市）は、特化して集めていますので、私もそこ（千葉西総合病院）にいたものですから、当院も、その関連で、本当の緊急事態は向こうと協力しながら、心臓血管外科の通常の2次（救急患者さん）及び3次（救急患者さん）に関して、対応できる日はなるべく当院で対応できるようにしていきたいと思っております。脳血管外科も、来年から1人また増員になる予定です。少しずつではありますが、いろいろと医師確保に努力していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

他にありませんか？

山下委員：

はい（挙手）

堀 議長：

山下委員、お願ひします。

山下委員：

その他の要望でよろしいのですね。帯状疱疹という病気があります。いろいろな病院の先生に聞くと、最近急増しているというのです。それで、私も『患者様の声』であげているのですが、帯状疱疹というのは、早期に気が付くと薬ですごくよくなる、後遺症も残らない。しかし、これは発見が遅れると帯状疱疹後神経痛というのになるのです。帯状疱疹だからいずれ治るだろうと言うのですが、帯状疱疹後神経痛ってのは、もう難病の一種で、治らないのです。神経系統の組織がもうやられている。ですから、痛みがないのに、神経が痛みを覚えて脳に痛いと言って、いつまでも伝え、1年か2年、さらにはもっとかかる。ずっと痛み止めの薬を飲み続けてね。それは、僕自身です。それで、そういうふうが増えていたので、帯状疱疹を早く発見するように、内科とか皮膚科とかも、もっと神経使って欲しい。私がやられたのが、木曜日にちょっとおかしいなと思って近所の内科行ったら、レントゲン撮って大丈夫だと。でもまだ治らないので土曜日に鎌ヶ谷総合病院に来て『痛くて、痛くて』と言ったら、CTとかいろいろ撮って、『異常ありません』と言われた。それで、痛み止めですよね。それで、日曜日は（鎌ヶ谷総合病院の受診）できませんよね。それで月曜日、もうどうしても痛いから、もう1回鎌ヶ谷総合病院に来たら、その時の担当医師が『これは帯状疱疹ですね、大変です、遅れています。これは後遺症が残りますよ』と見事に診断してくれた。今の後遺症なのですが、これは今慶応大学病院でペインクリニックというのを受けています。ブロック注射をするのですが、治りにくいということで、（帯状疱疹は）早期発見がとにかく何より大事だと。そう、この辺が痛い。胃の辺りとか、背中が痛いという異常な

痛みを訴えたら、帯状疱疹も疑って欲しいなと思います。私の今後の要望です。お願いします。

堀 議長：

ありがとうございます。最近の若いドクターは検査に頼りがちで、皮膚をみて痛いところがあれば、その表面を診れば、おそらく気づいた可能性があると思います。そういったところは反省しています。やはり検査でデータがいっぱいありすぎて、人を診ずに検査データばかり診ているところがありますので、そこは、私も含めて、今後ともまた再教育が必要だと思います。よろしく願いいたします。

杉山委員：

一応代理なのですが、薬剤師会の代表としてちょっとお話させていただきます。今（処方箋の）疑義照会をさせていただくことが非常に多くて、他の病院さんも、処方箋が出たときは、内容の確認をさせていただいております。偶然ですが、先日鎌ヶ谷総合病院さんの処方箋で疑義照会をさせていただいた時、受付の方に直接お電話をしました。直接お電話するのは普通のことなのですが、その時に、『疑義照会でしたら、ホームページご覧になっていませんか』というふうにまず問いかけられました。ホームページ上に疑義照会の仕方が、薬剤師さんへという形で載っているというのをその時点で初めて知りました。薬剤師会で現場のことをやっているにもかかわらず、知らなかったのも私の落ち度もあるかもしれませんが、知らされていなかったということも実際にはあって、事務局自体もその流れをまだわかっていなかったです。ですから、もしできれば船橋の医療センターの例を取ると、処方箋の右側が空いていて、検査値が出た場合や、疑義照会する場合にはこういうふうにしてくださいという案内が載っているのです。ただ、徳洲会さん系の病院ですと、大きな処方箋でその処方だけが載っていて、どういうふうにしていいかというのは全くないのです。できれば、薬剤師会にでも疑義照会の仕方というのを教えておいていただければ、ホームページ上に私達も載せますので、そして皆さんのところにリンクして飛ぶようにして、早くいろんなことが進むようになるのではないかなというふうに感じました。その辺ご協力させていただきたいのと、疑義照会も少し進化させたいということで、いろいろな病院さんとお話をしているのですが、プロトコールを作って、ここの部分については、もともとの同意を求めている、これについては疑義照会をしないとか、したものとして考えるというものを、ある程度契約をするような形ですることがあります。千葉西総合病院さんが多分それをやっていてホームページ上に載せていて、松戸とか柏の薬剤師会の方と契約をした上で、疑義照会をある程度しなくても済むような形で、どうしても必要な疑義照会はしていくという形。今そういう方向に進んでいますので、病院もそれを進めていただくと、地域連携という形も、そこから生まれる形もできると思います。（鎌ヶ谷総合病院の）薬剤部と地域薬局とそれも大事だと思いますので、ぜひその辺を進めさせていただければ、私が動きますので、どうぞよろしくお願い致します。

堀 議長：

はい、本当に大切な意見ありがとうございます。ぜひ参考にして、今後検討させていただきます。ありがとうございます。

他にはございませんか？

ないようでしたら鎌ヶ谷総合病院に対する要望につきましては以上で終了いたしたいと思います。

次にその他として何かご意見等ありますでしょうか？

よろしいですか。

ないようでしたら、その他の議題を終了いたします。

堀 議長：

全ての議題を終了いたしました。

以上をもちまして、令和 5 年度鎌ヶ谷総合病院運営協議会を終了いたします。

本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。